

氏名	國 近 尚 美
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3751号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Respiratory Variation in Superior Vena Cava Flow in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Estimation of Pulmonary Hypertension using Doppler Flow Index (上大静脈血流速波形の呼吸性変動を用いた慢性閉塞性肺疾患患者の肺高血圧評価の検討)
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 梶谷 文彦 教授 大江 透

学位論文内容の要旨

慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者では気腫状肺や縦隔の偏位により経胸壁心エコー施行難症例が多く、従来のエコー法での肺高血圧評価は難しい。上大静脈血流と肺循環との関係を明らかにし、COPD患者の肺高血圧を予測する指標として上大静脈血流速波形解析の有用性を検討した。COPD患者46名において、ドプラ法により上大静脈血流速波形と三尖弁逆流を用いた最大右室一右房圧較差を求めた。患者を2群（肺高血圧群：11名、正常圧群：35名）に分類した。呼気時の最小収縮期上大静脈血流速度は、正常圧群に比し肺高血圧群で有意に増加していた。また収縮期順行波の吸気時最大血流速度と呼気時最小血流速度の比は、最大右室一右房圧較差との間に有意な正の相関関係を認めた（ $r=0.61$, $p<0.001$ ）。経胸壁心エコー施行難のCOPD患者において、上大静脈血流の呼吸性変動は肺高血圧の重症度予測に有用なドプラ指標になると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者では気腫状肺や縦隔の偏位により経胸壁心エコー施行難症例が多く、従来のエコー法での肺高血圧症評価は難しいため上大静脈血流と肺循環との関係を明らかにし、COPD患者の肺高血圧を予測する指標として上大静脈血流速波形解析の有用性を検討したものである。経胸壁心エコー施行難のCOPD患者において、上大静脈血流の呼吸性変動は肺高血圧の重症度予測に有用なドプラ指標になると考えられたという研究結果を認め、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。